

「(農)三代原ファーム」から雲南地域でのアスパラガスの産地づくりに向けて

1. 農事組合法人 三代原ファーム(雲南市)

【設立】 H31年1月設立

【組合員】 75人

【経営面積】 19.5ha

【経営内容】

水稲 15.8ha

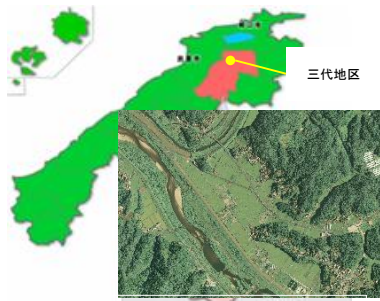
畑作物 2.8ha

(そば、大豆等)

園芸品目0.9a

(アスパラガス、
白ネギ、ミニトマト)

リースハウス4a×6棟



農業競争力農地整備事業
(H29～R7年度)

2. 取組の経過及び概要

H29年からの「農業競争力農地整備事業」導入を契機に、米に依存した経営ではやがて立ちゆかなくなると考え、園芸品目導入により経営を多角化し、雇用体制づくりを目指す。

その一つの品目として、女性がいきいきと活躍できる場を創出したいとの思いからアスパラガスを導入。

R2年度にJAが「農業用ハウス等リース支援事業」で整備したリースハウス3棟(12a)を活用し、R3年に定植、R4年から収穫を開始。

収穫や防除作業の負担軽減を図るため、高畝栽培方式やロボットスプレーカ(防除機)を導入。



高畝栽培



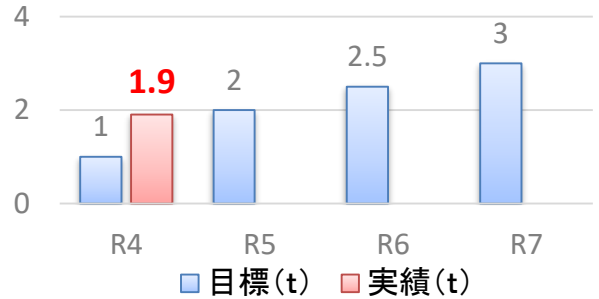
ロボットスプレーカ
(防除機)

「R2年水田園芸拠点づくり事業」

R2.9月補正「新型コロナウイルス感染対策農林水産収益向上緊急支援事業」

3. 取組の成果

(1) 初年目から目標を大きく上回る**1.9t**の単収を達成



(2) 女性の活躍の場づくり

園芸担当のリーダーは女性が務め、リーダーが休暇等を考慮しながら労働力を分配し、細やかな栽培管理と出役管理を実施。

アスパラガスは重労働が少ないため、女性でも作業がしやすく、出役者も増加。

(3) 地域への波及効果

雲南市の産業体験中の就農希望者や、圃場整備地区の視察受け入れを積極的に行っており、雲南市内でアスパラガス栽培への関心が高まり。

代表者から一言

「アスパラガスは重労働が少なく、高畝にすることで省力化にもつながり、収益性も確保できるため産地化に有利な品目。地域として生産量を増やしていき、有利な販売につなげていけたら嬉しい。」
「将来的には旧加茂町全体をカバーする経営体に発展させ、後継者の確保につなげていきたい。」

錦織基樹 農事組合法人三代原ファーム代表

4. 課題と今後の取り組み方向

(1) 共同選果場の整備

現在は斐川の選果場まで運んでおり、労力や費用がかかるため、新規栽培者を増やし、地域としてのロットを確保しつつ、共同選果場のあり方についての検討が必要。

(2) 後継者の確保と育成

アスパラガスを多角化部門の主力品目として、さらなる収益性の向上を図り、集落内にこだわらずUIターナーの受け入れを検討し、後継者を確保・育成。